

県立鬼怒商業高等学校自己評価表

| 目指す学校像 | 本県教育の目標・校訓をふまえ、地域社会の要望に応えながら、人間性豊かな個性の伸長を図り、教養ならびに専門的知識を高め、広い視野と適切な判断力、たくましい実践力を備えた、心身ともに健全な、国家社会の有為な人材を育成する。 | | |
|---|---|--|------|
| 昨年度の成果と課題 | 重点項目 | 重点目標 | 達成状況 |
| <p style="text-align: center;">平成25年度末に各部・各項目別に成果と課題について検討を加えた。</p> <p>・学力の向上では、分かる授業を推進し、内容の充実を図ることにより、意欲的に学習に取り組む生徒が増加している。また、全商簿記検定試験の1級合格者数が前年度より5名、情報処理検定1級合格者が22名、英語検定1級合格者が5名増加など成果を挙げることができた。授業時間の確保には授業の振替が徹底してきたため自習の時間が前年度に比べて15時間減少した。 ・次年度への課題としては、本校の目指す生徒像をふまえた教育課程の編成、学習意欲の低い生徒への組織的・計画的な指導方法の探求、家庭学習の習慣付け等が挙げられる。</p> <p>・心の教育に関しては、1年生生徒全員がボランティア活動を行い、地域に貢献する心や自己効力感を育むことができた。 ・次年度の課題としてはこのボランティア体験を活かして、地域の他のボランティア活動にも自主的に参加するような生徒を育成していくことである。</p> <p>・広報活動については、ホームページの刷新を図り、学校や商業教育等の情報を提供している。また、学校説明会や中学生の体験入学及び出前授業等を実施することで商業教育のPRを行っている。さらに県主催の生徒商業研究発表大会において最優秀賞を受賞し、関東大会（3年連続）へと出場した。 ・次年度は、これらの活動をさらに充実させて、広報活動に取り組んでいきたい。</p> <p>・進路指導については、各学年とも実施した行事が学年の生徒の実態と本校の進路状況を踏まえた啓発的・体験的な内容であったことと、進路に関する情報を生徒に適切に得させることのできる内容で大変効果的であった。進路決定率は全体で99.4%（昨年は98.4%）で、就職だけでは100%（同98.9%）である。（H26.3.10現在。） ・次年度の課題としては、進路実現100%を目指すために日々の学習活動により意欲的に取り組ませる工夫と、個に応じた就職・進学指導の充実である。インターンシップについては、今年度26事業所の実習先に於いて83名の生徒が体験したが、次年度は、さらに多くの生徒、事業所で実施したい。</p> <p>・生徒指導については、遅刻に対する指導を昇降口で行うよう改善したことで遅刻に対する生徒の意識が変わり、前年度より762件減少した。また、生徒指導対応マニュアルを作成し、職員間の共通理解を図った。 ・次年度の課題としては、服装・遅刻等の指導で職員間のさらなる共通理解を図り取り組んでいきたい。また、より組織的な生徒指導を行うために生徒指導対応マニュアルを活用し、問題行動の未然防止に努める。 ・「本校いじめ防止基本方針」の周知徹底を図り、いじめの防止、早期発見、早期対処に努めていく。 ・日頃から生徒一人一人をよく理解し、適切な信頼関係を築き、体罰防止の空気の変な醸成と指導力の向上に取り組む。</p> <p>・特別活動について、クラスマッチや体育祭においては、生徒会役員と実行委員の協力体制のもとに、生徒主体で実施することができた。 ・次年度の課題としては、さらに生徒を自主的に活動させ、生徒会の活動を活性化させるための体制作りに取り組んでいきたい。 ・部活動においては成績や結果を残すことのみならず、活動を通しての達成感や仲間との連帯感を育み、体罰等のない活動を継続する。</p> <p>・環境整備面では、ワックスがけ・モップ交換・全校清掃等、計画通りに行うことができた。 ・次年度への課題としては、生徒一人一人が環境や清掃等を身近な問題として意識していけるように指導していきたい。</p> <p>・図書関係では、蔵書点検や整備を行い利用しやすい環境を整えた。職員や生徒の希望図書調査を行い新刊本等の購入ができた。 ・次年度への課題としては、図書当番の徹底を図り、図書の魅力を伝える工夫が必要である。</p> <p>・渉外関係では、PTA総会の出席率が44%となり、研修旅行や支部研修会の出席率も増加傾向にある。 ・次年度の課題としては、スクールバスの新たなコースの検討、さらに消費税UPによる料金の検討を行うことである。</p> <p>・保健厚生では保健室の運営については、来室生徒の状態を把握し、処置等適切に対応することができた。内科・歯科の検診は全生徒が効率的に実施できた。また、性教育講話やAED講習会も予定通り実施することができた。さらに、危機管理マニュアルの見直しを行い災害に備える防災体制を整備することができた。 ・次年度の課題としては、学校の環境衛生および生徒の健康管理の向上に努めることである。</p> <p>・情報管理関係では、情報機器の更新を行いXPに関するセキュリティの問題への対応を行った。 ・次年度の課題としては、機器の更新によるシステム動作の不備等を改善したい。</p> <p>・関係者から「学力の向上」において、達成状況が「C」の重点目標について改善を求められた。また、各部の目標については前年度の結果に対しての目標となることが望ましいとの意見や課題解決のための具体的方策を明確に目標に位置づけて改善を図ってほしいとの指摘も受けた。 ・次年度については、目標設定にあたり、年度当初に打ち合わせを行い、より明確な目標を設定できるように努めたい。</p> | 学力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・分かる授業を推進し、学力の向上を図る。 ・授業時間の確保と授業内容の充実を目指す。 ・課題の提出や予習復習を徹底させて、家庭学習の習慣付けを行う。 ・授業観察等を通して、指導法を工夫改善し、指導力を高める。 ・学習意欲の低い者への組織的・計画的な指導を行う。 | |
| | 安定的な定員の確保に向けて、商業教育の活性化と広報活動に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得のための課外授業の実施に努める。 ・広報紙・ホームページ等で商業教育の広報活動を積極的に推進する。 ・地域と連携した商業教育の推進を行う。 ・効果的な体験入学を実施する。 ・メディアの情報に敏感に対応し、情報の共有化を図る。 | |
| | 進路指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談などのガイダンス機能の充実に努める。 ・キャリア教育を発達段階に応じて適切に実施することにより、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる。 ・進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。 ・ホームルーム活動における進路学習や進路相談の内容を吟味し、段階的、系統的な展開に努める。 ・教職員や保護者による求人確保及び開拓を推進する。 ・就業体験（インターンシップ）をとおして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。 | |
| | 生徒指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立に努める。 ・整容指導の徹底を図る。 ・問題行動や事故の未然防止に努める。 ・特別指導の充実改善を図る。 | |
| | 特別教育活動の活性化 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会及びHR活動の活性化に努める。 ・部活動の活性化に努める。 ・体育祭等の学校行事の充実に努め、生徒の主体的参加を促す。 ・ボランティア活動を推進して、奉仕する喜びを知る。 | |
| | 安心・安全な学校づくりの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康な生徒を育成する。 ・自主的に安全を守る能力を養う。 ・学校の環境衛生について適切な維持管理に努める。 | |
| | コミュニケーション能力の育成及びビジネスマナーの修得に務める | <ul style="list-style-type: none"> ・自らの考えを口頭や文書で的確に表現する力を養う。 ・挨拶の励行 ・他人の言葉や意見に素直に耳を傾け、相手の気持ちを推察する能力を養う。 ・ビジネスマナーの徹底 | |

※ 評価基準

A：目標をはるかに上回った

B：目標を達成できた

C：目標にわずかに届かなかった

D：不十分

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 達成状況及び次年度への課題 |
|-----------------|---------------------------------------|--|--|---------------|
| 教科 | 国語 | 授業に意欲的に取り組む態度を育てる。 | ノートや課題集等を学期毎に（年間3回以上）点検することを通して、授業に集中して取り組む態度を育てる。 | |
| | | | 定期試験対策の時間を設け、理解度の低い生徒をフォローし、学習意欲を引き出す。 | |
| | | 場に応じた適切な表現力を身に付ける。 | 俳句・短歌等への積極的な応募を通し、複数入選を目指しながら、自らの感性を磨き、相手に伝える表現力を育てる。 | |
| | | 家庭学習の習慣化を図り、自発的な学習態度を育成する。 | 定期考査に向けて宿題を課したり、長期休業中（夏、冬）に課題集等を必修の宿題とするなどし、定期的な家庭学習の習慣を身に付けさせる。 | |
| | 社会 | 授業に意欲的・集中的に取り組む姿勢を促す。 | 発問を増やすことで、生徒の興味・関心を引きつける授業展開を心がける。 | |
| | | | 視聴覚教材や新聞等の資料を効果的に活用する。 | |
| | | | 生徒が授業に参加するよう対話型の授業展開を心がける。毎授業ごとに、クラスの多くの生徒が発表できるよう発問や展開を工夫する。 | |
| | | 教科の基礎学力の定着をはかる。 | 授業内容の確認プリントやノートの点検等きめ細かな指導を行い、理解度の低い生徒に対するフォローを実施する。ノートの点検は、年3回以上行う。 | |
| | 数学 | 教科書の内容の定着を図り、発展的な事象も取り扱う。 | より多くの事例を通し、体験的に理解できるように工夫する。 | |
| | | | 課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。 | |
| | | | 各定期考査で、発展的な事象も取り入れ、60%以上の習熟を目指す。 | |
| | 理科 | 基礎的な学習の向上を図る。 | 商業科・情報ビジネス科において、希望に応じて課外を実施する。 | |
| | | 科学に対する意識・関心を高め、科学的思考力を身につける。 | 身近な物質や現象、最新の科学情報等を話題として提供し、科学に対して関心を持たせる。 | |
| | | 物理実験室・化学実験室利用を高める。 | 教室内の授業以外に実験室・屋外を利用して実験・実習を行う。 | |
| | 体育 | 体力の向上と各種運動技能の習得に努める。 | 体力テストA及びBの割合を50%にする。 | |
| | | できる喜びを実感できる授業実践に努める。 | 卒業課題の合格率95%を目指す。 | |
| | | 体育的行事とのタイアップをはかる授業を展開する。 | クラスマッチ等の学校行事に向けた意識付けにおいて、集団における協調性を身につけさせる。 | |
| | | よりよい体育授業の実践を図る。 | 担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。 | |
| | 保健 | 生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。 | 最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。 | |
| | 英語 | 基礎学力の向上に努める。 | 各学年、年3回スプリング・コンテストを実施し、語彙力強化を目指す。 | |
| | | 上級学校への進学を念頭に、進学課外を実施する。 | | |
| | | 成績不振者に対して、課外を実施し、学力の向上を図る。 | | |
| 資格取得のための指導に努める。 | | 全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように合格対策課外を実施する。 | | |
| | 実践的コミュニケーション能力の向上に努める。 | LL教室や音声機材を効果的に活用し、コミュニケーションに必要なリスニング能力を強化する。 | | |
| | | パフォーマンステストを実施し、実践的なコミュニケーション能力を育成する。 | | |
| 家庭 | 基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。 | 実験・実習を多く取り入れ、具体的にわかりやすい授業を展開する。 | | |
| | | 小テスト・実技テスト・プリント点検等を通して、基礎的な知識と技術を定着させる。 | | |
| | 生徒の実態に応じた個別指導を充実させる。 | 実習授業において個別指導や補講を行い、全員に作品完成の達成感を持たせる。 | | |
| | 家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 | ホームプロジェクト活動を通して、生活を向上させる。 | | |
| 商業 | 学力の向上を図る。 | 学力向上のための検定試験全体で、60%以上の合格を目指す。そのための課外と平常時の課外を実施する。 | | |
| | | 科目ごとに授業研究を行い、工夫改善をして学力向上に努める。 | | |
| | 商業教育の公報活動に努める。 | 地域と連携した商業教育の推進を図るため、出前授業を実施する。 | | |
| | | 商業教育の理解を深めるため、効果的な体験入学を実施する。 | | |
| | ビジネスにおける実践力の育成を図る。 | 総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。 | | |

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 達成状況及び次年度への課題 | |
|------|------------------------------------|--|---|---------------|--|
| 校務分掌 | 教務 | 学力の向上に努める。 | わかる授業の展開と学習意欲の喚起をする。 | | |
| | | | 指導力向上のために授業観察日を設け、教師のスキルアップを図る。 | | |
| | | 授業時間の確保に努める。 | 学校行事による、曜日・時間のかたよりを少なくし、曜日の振替も行う。 | | |
| | | | 年休・出張の際の授業を原則振り替えとし、週当たりの自習時間を2時間以内とする。 | | |
| | | 教育課程の編成に努める。 | 本校の目指す学校像や生徒のための教育課程を編成する。 | | |
| | | 内規の改正をする。 | 本校の現状をふまえ、内規の見直しを行う。 | | |
| | | 学業不振による転退学者の減少を目指す。 | 成績不振の生徒のために補習や課外を計画的に行う。 | | |
| | | 心の教育担当：奉仕の精神や社会貢献への関心を高め、社会連帯の精神を育てる。 | 結城特別支援学校との交流事業や地域イベント等におけるボランティア活動を推進し、社会に奉仕する心を育む。 | | |
| | ボランティア活動を全員に体験させ、豊かな心・地域に貢献する心を育む。 | 各ボランティア活動の事前・事後指導を確実にを行い、道德の授業との連携を図る。 | | | |
| | 生徒指導 | 生徒全員に朝の挨拶をさせる | 登校指導において、挨拶がかえってくるまで呼びかけていく。 | | |
| | | 服装・頭髪等について校則を守らせる | 登校指導、授業、休み時間等において、違反を見逃さず、全職員で呼びかけていく。服装チェックカードを活用し、段階的指導を行い、校則違反をなくすよう努める。 | | |
| | | 遅刻者数を大幅に減らす | 8時35分過ぎに昇降口と教室でダブルチェックをして遅刻の取り扱いを統一する。遅刻カードを活用して段階的な指導を行い、遅刻の防止に努める。 | | |
| | | 交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ | 校外指導を実施したり、普段からHR等で注意を呼びかけてもらう。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会・四輪車安全運転教室等を実施する。 | | |
| | | 問題行動を未然に防ぐ | 全職員による立哨指導および校内巡回で昼休みの生徒の動向を把握したり、服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。 | | |
| | | 教育相談活動の充実 | 教師の指導に加えて、スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリング、保護者への指導・助言等により、教育相談体制の一層の充実化を図る。 | | |
| | 特別活動 | 生徒会・HR活動の活性化につとめる。 | 生徒会役員会の定例化・生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。 | | |
| | | 部活動の活性化に努める。 | 各部活動の目標を設定させ、意欲的な取り組みを促す。 部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。 | | |
| | | 文化祭等の学校行事の充実に努め、生徒の主体的参加を促す。 | 特活部会・生徒会等の話し合いを密にし、学校行事の実施に向けての準備・取り組みを早期に図る。 | | |
| | 進路指導 | 進路保障と生徒個人に対する進路指導を展開する。 | 生徒の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てるキャリア教育を発達段階に応じて適切に実施する。 進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。 | | |
| | | 積極的に進路ガイダンスを行う。 | 進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談などのガイダンス機能の充実に努める。 | | |
| | | 求人確保及び開拓を行う。 | 教職員による求人確保及び開拓を推進する。 | | |
| | | インターンシップをとおして職業意識の啓発を図る。 | 就業体験（インターンシップ）をとおして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。 | | |
| | 環境整備 | 自ら率先して清掃を行う態度を養う。 | 教室のワックスがけ、モップ交換を定期的に年間4回行う。 清掃監督を毎日きちんと行う。 学期毎の目標を設定して、環境衛生面での意識の向上を図る。 | | |
| | | 環境問題等に関する意識の向上を図る。 | 学校周辺の空き缶・空き瓶・ごみ等の清掃を年2回行う。 | | |
| | | | ゴミの分別をきちんとさせる。 | | |
| | | | | | |

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 達成状況及び次年度への課題 | |
|------|-------------------------------------|--|---|---------------|--|
| 校務分掌 | 保健厚生 | 生徒の心身の健康増進を図る。 | 保健室の効果的な運営に努める。 | | |
| | | | 諸検診の効果的な実施に努める。 | | |
| | | | 専門家による性教育を実施する。 | | |
| | | 学校生活の安全教育に努める。 | 防火・防災避難訓練やAED講習会を実施するとともに、危機管理マニュアルの見直しを行う。 | | |
| | 図書 | 学習環境を整備する。 | エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。 | | |
| | | | 水質検査および室内環境検査等を実施する。 | | |
| | | 情報センターとしての図書室環境を整備する。 | わかりやすい蔵書の配置・整備に務め図書室を利用しやすい環境を整備する。 | | |
| | | | 原則として長期休業中を除き開館し、生徒の図書室利用に対応する。 | | |
| | 渉外 | 読書指導と読書の推進を図る。 | 1年生全員クラス毎に図書室利用のオリエンテーションを実施する。 | | |
| | | | 新刊本をカラーコピーし、生徒昇降口に掲示する。 | | |
| | | | 職員に対する購入希望図書の調査回数を増やすとともに、随時生徒・職員の購入希望を受け付ける。 | | |
| | | | 生徒・職員の希望図書を購入し、生徒発行の「図書室だより」で新着図書案内を行う。 | | |
| 情報管理 | PTA各種行事、会合への保護者の参加率を高め、家庭との連携を密にする。 | PTA総会や授業参観への出席率が40%以上になるよう工夫をする。 | | | |
| | | 学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙の充実をはかる。 | | | |
| | | 会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。 | | | |
| | | PTA支部研修会への出席率が向上するよう声かけをする。 | | | |
| 学年 | 一学年 | 同窓会の組織強化に努める。 | 副会長、常任理事を増員する。 | | |
| | | 50号バイパスの本校に降りる交差点「鬼怒川西」を「鬼怒商前」に変更したい。 | P T A ・同窓会合同で検討していく。 | | |
| | | スクールバスの円滑な運行をはかる。また、新たなコース導入や消費税への対応を検討する。 | スクールバス運行委員会において、常に問題点を改善していく。 | | |
| | | 教育活動の公表に努める。 | 生徒専門委員会を活用し、ホームページの内容を随時更新し、情報を発信する。 | | |
| | 二学年 | 情報の保護・管理に努める。 | 公務上知り得た学校や生徒の情報の保護に努めるよう、手引きを作成する | | |
| | | 危機の更新に伴うシステムの整備に努める。 | 危機の整備に伴うシステムの変更の際に、異常が出ないよう努める | | |
| | | 進路意識の高揚に努める | 欠席・遅刻・早退ゼロを目指し、家庭との連携を密にする | | |
| | | 情報ビジネス科の特徴を活かした指導を実現させる | インターンシップやオープンキャンパスへの主体的な参加を促す。面接指導を年間5回以上実施する。集会や授業にスピーチを取り入れる。 | | |
| | 三学年 | 進路意識の高揚とコミュニケーション能力の育成に努める | 心身の教育事業に全員が参加し、心豊かな生徒を育てる | | |
| | | 授業環境の質の向上に努める | 挨拶の励行を推進し、生徒への声掛けを積極的に行う | | |
| | | 部活動での主体的活動を担う。 | 授業開始のチャイムを座席で聞くよう心掛けさせる | | |
| | | 部活動での主体的活動を担う。 | ガイダンスおよび面談等を5回以上実施し、早期の意識付けを行う | | |
| 三学年 | 進路意識の高揚とコミュニケーション能力の育成に努める | チャイムtoチャイム、きちんとした挨拶や身だしなみ、携帯電話の提出、授業中の私語をゼロにする指導の徹底。全員進級を目指す。 | | | |
| | 授業環境の質の向上に努める | チャイムtoチャイム、きちんとした挨拶や身だしなみ、携帯電話の提出、授業中の私語をゼロにする指導の徹底。全員進級を目指す。 | | | |
| | 情報ビジネス科の特徴を活かした指導を実現させる | 情報ビジネス科については、各種検定試験1級合格率平均80%を実現する。商業科についても、50%を実現。 | | | |
| | 部活動での主体的活動を担う。 | 部活動加入率40%を維持し、学校の活性化にも貢献する。 | | | |
| 三学年 | 部活動での主体的活動を担う。 | 部活動加入率40%を維持し、学校の活性化にも貢献する。 | | | |
| | モラルを重んじ、規則を守るよう啓発していく。 | 鬼怒商生である事に誇りを持たせ節度ある行動を取らせる。早期発見・早期解決を心がけ、学校と家庭の連携を密にする。学年集会等を設け未然防止に努める。特別指導を年間一ケタにする。 | | | |
| | 社会人を意識したコミュニケーション能力の向上をはかる | 生徒との会話を密にする中で指導していく。特に商業科目（総合実践）においては社会人としてのマナー教育を実践させる。 | | | |
| | 挨拶や正しい言葉遣いを身につけさせる | 教員からも積極的に生徒に挨拶をし、会話の中で言葉遣いを指導していく。面接指導を年間5回以上実施する。 | | | |
| 三学年 | 全員卒業を実現させる | 進路変更者を出さない。保護者との連絡を密にし、連携をはかる。 | | | |
| | 進路未決定者ゼロを実現させる | 将来の自分を本気で考えさせることで、フリーターを出さない。進路ガイダンスを3回実施。 | | | |
| | 情報ビジネス科の生徒に高度資格を取得させる | 全商1級3種目合格者を80% ITパスポート（情報処理技術者試験）5名、日商簿記検定試験2級 5名、3級 30名 | | | |
| | 情報ビジネス科の生徒に高度資格を取得させる | 全商1級3種目合格者を80% ITパスポート（情報処理技術者試験）5名、日商簿記検定試験2級 5名、3級 30名 | | | |

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分